2019 年 11 月 作成（第 1 版）　　承認番号 ： 15300BZZ00023000

機械器具 18　血圧検査又は脈波検査用器具
管理医療機器　単回使用静脈ライン用マノメータセット　70046002

静脈圧測定モニター

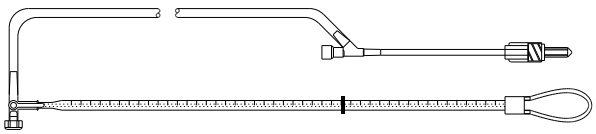
再使用禁止

【禁忌・禁止】
●再使用禁止
●ポリカーボネートを材料としたコネクター等を使用しているため、脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含有する製剤等の投与には使用しないこと。［破損する可能性がある。］

【形状・構造及び原理等】
＜概要＞
中心静脈圧、末梢静脈圧測定が連続的、間欠的にでき、長期の特殊測定が可能である。

＜本品の基本構成＞

本品は、圧棒部、連結チューブ及び三方活栓からなり、
連結チューブには側注用のト字管が組み込まれている。



●本品はポリ塩化ビニル（可塑剤：フタル酸ジ-2-エチルヘキシル）を使用している。

［作動原理］
1. 本品は、中心静脈圧の測定に用いられ、定常状態であれば右心の前負荷を反映し、循環血液量の過負荷を知る指標となる。
2. 定常状態においては、中心静脈圧は右室の前負荷、肺動脈楔入圧は左室の前負荷を反映する。
　中心静脈圧の上昇：循環血液量の増加、右室収縮力の低下、静脈の緊張増大
　低下：循環血液量の減少、右室収縮力の増加
3. 中心静脈圧に影響を与える因子
　循環血液量、右心機能、腹腔・胸腔内圧、静脈の緊張状態

≡用語説明≡
中心静脈圧 ： 右心房から約 5 ㎝以内の上下大静脈の内圧のことをいう。

【使用目的又は効果】
本品は、中心静脈圧、末梢静脈圧測定が連続的、間欠的にでき、長期の特殊測定が可能なセットである。
本品は滅菌済みであるので、そのまま直ちに使用できる。

【使用方法等】
下記の説明は一般的な方法である。必要に応じて医師の臨床経験に基づき、手順の追加、変更を行うこと。

○ 静脈圧測定方法
1. 患者に目的、手順などを説明して水平位をとる。
2. ＣＶＰカテーテル挿入部位を確認する。［鎖骨下静脈、内頚静脈、外頚静脈、肘部正中静脈、大伏在静脈］
3. 輸液にプライミングが完了した点滴セット、三方活栓、エクステンションチューブを清潔操作で接続しておく。
4. ベッド挙上３０°までではＣＶＰ値に影響しないとされている。脳圧が著しく亢進している時、胸部の大手術や呼吸窮迫状態で水平仰臥位がとれない患者に関しては、ベッド挙上角度を統一して測定する。
5. 一定の基線を確保するため、第 4 肋間と中腋下線の交点を 0 点として本品の圧棒内液面の位置を測定することにより中心静脈を測定する。
6. ベッドを上下に動かした後は、必ず再度 0 点調節を行う。
7. 中心静脈圧を測定する際には、三方活栓のレバー方向（OFF）を確認し、レバー（OFF）が適切な方向に向いていることを確認した上で測定する。

≡用語説明≡
プライミング操作 ： コネクター等のカバーをはずし、輸液・輸血セットに接続した後、コネクター先端まで薬液を満たし、完全に空気を追い出すこと。

【使用上の注意】
［重要な基本的注意］
1. 包装開封後はすぐに使用すること。
2. すべての操作は無菌的に行うこと。
3. 使用前には、本品に損傷等異常がないことを確認すること。
4. カテーテル先端の位置については、ルート刺入部のガーゼ交換時にカテーテルの露出部の長さ、縫合固定部の状態をチェックして、抜けている可能性がある場合には、測定前に胸部Ｘ線で確認すること。
5. ＣＶＰ測定時には、胸腔内にある確証としての呼吸性の移動を確認すること。
6. 体位により測定値が異なるので、同一体位（原則として水平仰臥位）で測定すること。
7. 体動や怒責が加わると正確な測定値が得られないので、患者に目的、手順を説明して協力を得ること。
8. ＣＶＰ値は、絶対値も重要であるが、変動値の臨床上の意義も大きいので、経時的に観察すること。
9. 人工呼吸器による陽圧呼吸時、特に高い PEEP をかけている場合は、ＣＶＰ値に影響を与えるので、統一した条件で行うこと。
10. 体位変換、吸引などの処置もＣＶＰ値に影響を与えるので、処置後 5 分以内の測定はしないこと。
11. ＣＶＰ値が異常に高い、もしくは低いときには、まず測定手技が正しいか、チューブにトラブルがないかを確認すること。その上で、水分出納と関連づけて異常値の意味を判断すること。
12. ＣＶＰ測定により感染を起こさないように、測定者は清潔操作に十分注意すること。
13. 使用中はすべての接続部に緩み、外れがないかを常時確認すること。
14. 脂溶性の医薬品ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ-2-エチルヘキシルが溶出する恐れがあるので、注意すること。

［相互操作（他の医薬品・医療機器との併用に関すること）］
1. 心臓、血管系の薬剤（昇圧剤、降圧剤など）が持続投与されている場合、ＣＶＰ測定によりその薬剤をフラッシュすることになり危険であるので、重要薬ルートでの測定は行わないこと。
2. 原則的に、ダブル、トリプルのカテーテルを使用するか、末梢ルートを確保し、別ルートにすること。
3. 持続的に測定を行っていない場合、測定後は三方活栓のレバーを元に戻し、輸液の再開を確認すること。

4. 本品は、ポリカーボネートを使用しているため、接続部をアルコールが含まれる薬剤等で消毒しないこと。また、アルコール等を含む薬液を三方活栓等から側注する場合は、本品のコネクター、三方活栓等の接合部がひび割れを起こす可能性があるため、接続部に十分注意し、ひび割れ等による液漏れ、空気の流入等がないかを確認して使用すること。

【保管方法及び有効期間等】

［保管方法］

●水ぬれに注意し、高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。
●蛍光灯下やオゾンを発生する機械の周辺等に保管しないこと。

［使用期限］

●包装（ラベル）に使用期限を表示している。［自己認証による］

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

［製造販売元］

フォルテグロウメディカル株式会社
電話番号 0283-22-2801